

有り難し

広島県 東光寺 住職 松岡真誠

「ありがとう」という言葉は、感謝の心を表す美しい日本語です。

この「ありがとう」は、「有り難し」という言葉から転じたものです。

こんなお釈迦様のお話があります。ある時お釈迦さまが、弟子の阿難尊者(あなんそんじや)にお尋ねになりました。「人間として命を授かった事をどのように思っているか」と。阿難尊者は「喜びをもって努めております」と答えました。さらにお釈迦さまが「その喜びとは、いったいどのくらいのものだろうか」とお尋ねになると、阿難尊者は答に窮してしまいました。

するとお釈迦さまはこうおっしゃいました。「果てしなく広がる海に、一本の古木が浮かんでいた。この古木には穴が一つ空いており、波に揺られるまま浮木(浮いた木)としてこの広い海を漂っている。

この海の底には、一匹の亀の姿があった。亀はずっと海の底で暮らしていて、百年に一度息をするために波の上に顔を出すという」。

「ところで、この亀が百年に一度、波の上が上がってきたとき、波間に漂う浮木の穴から頭を出す、そんなことがあるだろうか」とお釈迦さまはまたお尋ねになりました。阿難尊者が「そんなことはと

ても考えられません。有り得ないことです」と答えると、お釈迦さまは「そうだね。とても考えられない。あり得ないことだね。しかし、私たちが人間としてこの世に生まれるということは、亀が浮木の穴から頭を出すよりもっと起こり得ないことで、とても有り難いことなのだよ」とおっしゃいました。私たちがこの世に人間として命を授かることの有難さ、尊さに気付かされるお話です。

さて地球上には、動物や昆虫・植物など、870万種もの生物が生存しているとされます。また世界の人口は、今や80億人を超えました。こんなにもたくさん命の中で、私たちは今、人間としてこの世に生まれてきたのです。そして一人ひとりが、他の誰にも代わりをつとめることができないかけがえのない命を生きているのです。この有り難い命の姿に気づくとき、感謝と喜びの中から自ずと発せられる言葉が「ありがとう」なのでしょう。私は、この「ありがとう」という言葉を、大切にそして心を込めて、たくさんの人に届けていきたいと思っています。